

月の館

信濃観月文庫

通信

おみ
麻績村
発行 / 信濃観月苑
長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2
TEL・FAX (0263)67-3933

第25号

誰家無

明月清風

たがいえにかめいげつせいふうなからん



感謝

麻績村
信濃観月苑
平成 28 年
三月 十日

窪田孟恒

麻績村の冬青ふゆあお

山崎 樹彦



十一月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

十二月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

冬青の型染（麻績村地域おこし協力隊員の撮った写真をもとに制作。染料は松煙、ラック、藍、エンジュ）

私たちの理想を心楽しく聞いてくれる人がいるとしたら、草木染の命名者でもある祖父の山崎斌かなと思ったことがあります。私がこの仕事を

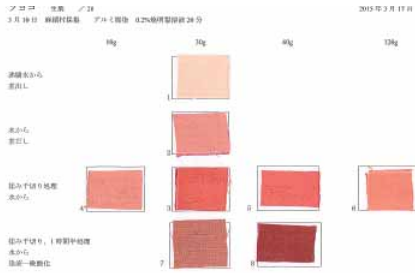
をする気になったのは、大学時代に既に他界していた祖父の編集した日本の自然や伝統を綴ったいくつかの本を古本屋で見つけて読んだことがきっかけの一つです。草木染というよりは人が自然と共に、風土と共に生きる姿を実感し、よりよい価値観を見出したいという若い希求が、これらの本を著した当時の祖父の気持ちと重なったように思えたのです。

その祖父の郷里である長野県麻績村で講習会を引き受けたことがあります。私は講習会というものが苦手で、人々が学びたいと思うものと、私が伝えたいと思うものとの差をいつも埋めきれない事が苦痛でした。それでも、その講習会は年に一度の募参りもかねて、楽しみにしていたのですが、ある年、その会

で色がでない染色をしたのです。

その染料は冬青（そよご）です。信州に自生し、会場の観月苑周辺の山で採集できるということもあり、講習の染料として選んだのです。アルミ処理で、すこしの茶味と青みを含んだ重厚な赤をだす染料で、秋から冬にかけて赤味が増し、常緑樹ではあるけれども新葉の出始める4月には色が薄くなる。これが一般的に言われている冬青の染色だと思います。10月上旬の講習会直前に送ってもらった冬青でも染まりましたし、先ず問題ないと思って臨んだ講習会で染まらなかったのです。

通常、私たちのところでは水から煮出しますが、このときは講習会ということもあり、時間短縮のために湯をあらかじめ沸かしておいてもらい、準備の遅れた班では熱湯に染料を入れて煮出すということになりました。ぬるま湯からの班は辛うじてわずかに



試験布染め結果の写真

赤味が染まりましたが、熱湯から始めた班は薄いベージュにしか染まりませんでした。葉は青みを帯びたままです。急ぎよ、新しい葉を水から煮出しなおしました。葉は赤茶色に徐々に変じ、染液は赤味と黄味のある液でした。この液で染め、アルミ液で処理すると黄色になり、同じ液で再染色すると赤く変化し、冬青らしい若干茶味のある赤が得られたのです。水から煮出すと赤くなる、ということは低温の水に浸している間に赤を出す色素が形成される、あるいは水溶性になるといふこと



冬青で染めたストールの写真
(黄みの赤、赤、赤から桃色のグラデーション)

でしようか。おそらくは熱に弱い葉に含まれている酵素が、何らかの変化に関与し、赤味を生じるのだと思われる。そこで、その当時から始めていた試験布染を行いました。試験布染はいろいろな条件を設定して染めることにより、染料の状態や色素の性質、工程の意味などを調べる比較実験です。



採集された冬青の写真

水から煮出したものと、お湯からのものとの差もありますが、葉を細く千切って揉む処理をしたものが赤味がぐんと増したのがわかりました。良い条件で染めれば蘇芳で染めたような色にもなります。採集する季節、採集してからの保存の仕方によって、赤味の出方も少しづつ違います。染料の採集条件、染料と水の量比、前処理のやり方と処理時間、染液の酸化条件などを細かく比較してみました。そのために麻績村の人たちをお願いして、冬場には冬青の葉を毎月送ってもらおうようになりました。

その毎年の様々な試験布染と実際の作品制作における染色の繰り返しで、近年ようやく冬青らしい濃い赤や美しく澄んだ桃色を染めることが出来るようになりました。求める色を得ることは、植物そのものを見据えること、その植物を育んでいる風土と人を理解し、協力を得られなければ成り立たない事でした。

私達の仕事が風土や風土を大切に思っている人たちとともに成り立ち、将来に受け継がれていく事を願うようになりました。そのきっかけを作ってくれた麻績村の人たち

と自然に深く感謝しています。冬は冬青と向き合う季節です。麻績村の山の冬青の木々を思い出しながら、縁の薄かった祖父との対話が、これからも長く続くような気がしています。

山崎 樹彦
(やまざき たてひこ)



一九五八年 群馬県高崎市生まれ
一九八二年 北海道大学理学部卒
父、山崎青樹の経営する草木染研究所に入所
実務を担当していた叔父、篠崎節に草木染及び草木染型染を学ぶ
二〇一一年 群馬県富岡市妙義町に移住
風土に根ざした草木染の確立に向けて研究、創作を行っている
草木屋代表、草木染伝習所主宰

麻績のかたくりの花

松本市 小林貴子（「岳」編集長・現選者）

「月の館通信」は今回 25 回目の発行となります。この機会に、いままで 19 回発行してまいりました「月の里俳句集」にお寄せいただいた俳句随想の一部を転載いたしました。

西暦二〇〇〇年の一月から、麻績村にて俳句の話をさせて頂いた。三ヶ月の期間が過ぎると、俳句会を続けようということになり、以後現在まで「月読句会」を重ねている。会員の皆さんの熱意と努力がなければ、句会は存続しない。村の支援者の方々を含め、皆さんのお志に厚く敬意を表す次第である。

九年の間には、村内の色々な所へ吟行に行かせて頂いた。シェーンガルテンおみ、信濃観月苑、麻績神明宮、佳好砦の滝などなど。
なかでも印象深いのは、春先のかたくり祭だろう。平地の道をぐるっとたどって行くのと、片側になだらかな斜面が続く、その斜面の余り高くないところに、あまり群れすぎないほどに、かたくりの花が



可憐に咲いている。足を止めて、かたくりの花をじっと見て、再び歩き始めた時に「ああ」とひらめいた。かたくりの花って、彗星みたいなだな、と思ったのだ。子供の頃、ハレー彗星の話を見聞して、彗星とは流れ星のように、さーっと通り過ぎるものだろうと頭に思い描いていた。ところが、一九九七年にヘールボップ彗星を実際に見たら、動きが遅いため、肉眼では静止しているようにしか見えな

い。空の一点に留まって、尾を引いて燃えているのが、不思議だった。その彗星の形に、かたくりの花は似ていると感じた。
彗星の燃ゆる形にかたくりは

かたくりは後ろ手を組み
咲き切りぬ 貴子

その時まで私は、かたくりの花というと必ず、飯島晴子さんを思い出していた。飯島さんは生涯にわたって、対象に対して自分が抱いている先入観（イメージ）と、その対象を実際に見た時に抱く感じとの齟齬に悩み続けた俳人である。かたくりの花にまつわる随筆も残されており、かたくりは飯島さんを悩ませた齟齬の象徴のような存在なのである。

その飯島さんの観念に、それまでの私も同様にとらわれていた。その呪縛から逃れることが出来たのは、麻績村の

春の優しい日射のなかで、句会の仲間とくつついたり離れたりしながら、ゆったりとした気分で、ゼロからかたくりの花に接することが出来たからに他ならない。そのように自覚した時、かえって、飯島さんの孤独に身を切られるようにも思った。

私は元来思い込みの激しい人間であるが、俳句を始めてから、ものを真っ直ぐに見ることを俳句に教えられた。これからも多くのことを俳句から学び、麻績の俳句仲間から学んでゆくことだろう。

磯笛の句に寄せて

塩尻市 田澤博（「梟」）

水上孤城特選

磯笛に寄する

卯波の白さかな

尋常小学読本巻二の巻頭は、山ノ上という詩で、山育ちには妙に好ましい教材だったのかも知れない。

ムカフノ 山ニノボツタラ、
山ノムカフハ 村ダツタ。
タンボノ ツツク 村ダツタ。
とあって、やがて海に出会う。
幼心にもこの印象は強く、
あの西にある川合の山に上れ

ば、海が見えると本気で思い続けたことが蘇る。

戦時故に待望の修学旅行は、中止となった。成人の後、幾度か伊勢路を南下する。最近は、同級会で修学旅行と称して伊勢参り、一昨年も三河湾一周と、山育ちは何時までも海に惹かれている。

ツツク タンボノ ソノ サキハ、
ヒロイ ヒロイ ウミダツタ。
青イ 青イ ウミダツタ。
小サイ シラホガ ニツツツ、
青イ ウミニ ウイテキタ。
トホクノ ハウニ ウイテキタ。
と。勿論、磯笛の方々にも。
この度は最高の賞に選んでいただき、ありがとうございます。
体調を崩してしまい水上先生はじめ諸先生方に大変失礼をしてしまいました。ご容赦下さい。

稀に見る幸運

須坂市 三輪浅茅（「ホトトギス」）

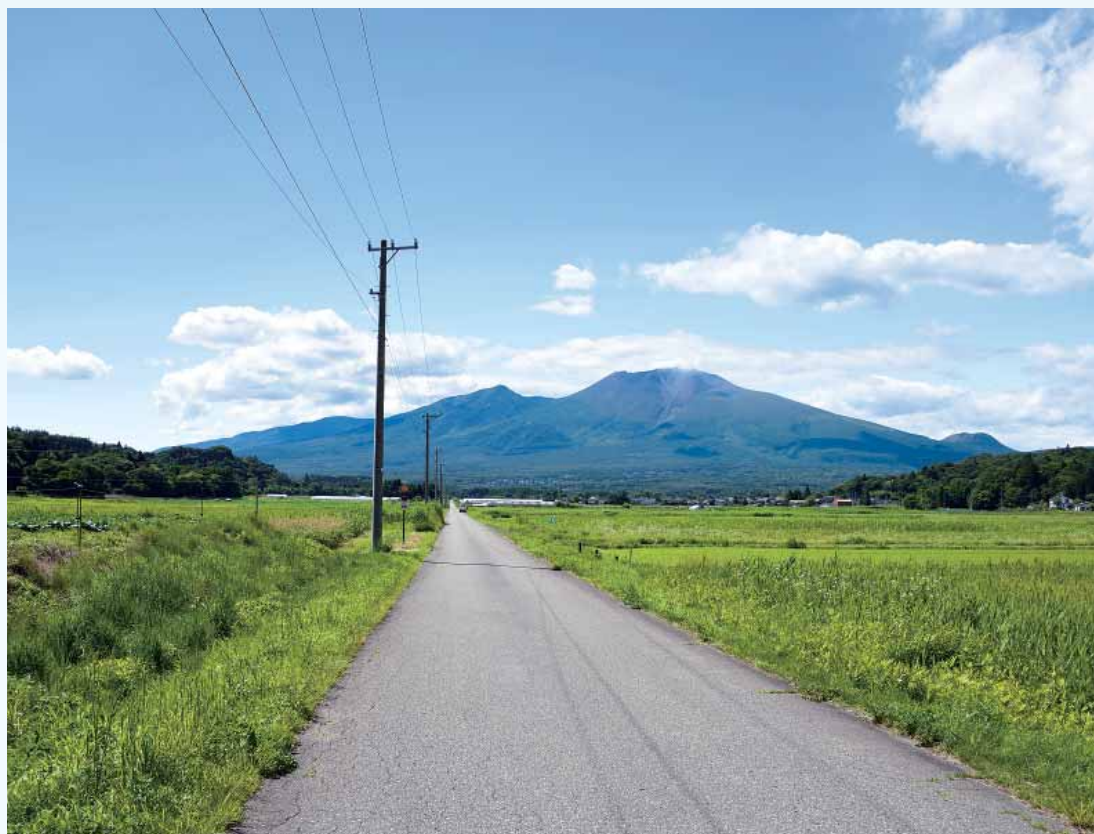
星野椿先生が野沢温泉へ来られたのは、夫君が丸ビルではいばらという紙屋をしており、内山紙の実演があった、その時「ぜひ信州へもお越し下さい。三月がいいですよ。」ということになった。立子先生は亡くなり、そのふた七日に、旅行はすでに決めたからとおいでになられた。その時私は「入社した会社がホトトギスが盛んで、そのまま私は今日があるのです。」と申し上げると、椿先生は「それは稀にみる幸運なことなのよ。ふとしたことからホトトギスの良さを知り、一からやりなおして老いて苦労している人を私はいっぱい知っているのよ。」と言われてびっくりした。玉藻の創刊は昭和五年、立子亡きあと高木晴子選になり星野椿、星野高士とつづい

ている玉藻の会員の中にもすでに立子先生を知らぬ人が多くまして虚子などすでに遠い人である。虚子選に入ったことのあるあなたは非常に貴重な方である、虚子先生の思い出を書いてくれませんか頼まれて、当時虚子先生の思い出を玉藻に書いたことがある。句会が始まる前に、私は「あなた方は先生がどんな句を作られるかも知らずお気の毒ですね。」と言われていたのであるが、朝になるとぐると取りまかれた。昨夜の私の句

千曲川渡り紙漉く村に着く
という句が宿で話題になったとか。「私達は名所旧跡を歩くばかりでそういう句が作れないんです。」と言うので、「私は虚子先生以来句作をつづけて来たばかりで、皆さん

俳句所感

菊川市 田中白萩子（「岳」）



のようにハイカラではありません。」と言うと「いいえそういう句がいいのです。だから先生もおとりになったのです。」と言う。

虚子小諸俳句大会には、椿先生が兼題、高士先生が当日句の選者をされる。私も当日

句に

耕して浅間山に天に至りけり
という句が高士特選になった
ことがある。

私は日の当るところを通って俳人になった。まことに不肖の弟子で先生方には申し訳なく思っている。

伝統俳句を常に尊重しながら現代俳句の可能性を追求してゆく中で、色々な会派があるので断定的なことは言えないが、写生によって愚直に述べたい。まず人の俳句を読むことが一番勉強になる。句にはひとつの発見とか、美とか、「もののあはれさ」がなければならぬ。感情を事物に託して詠うこと。時事をあまりなまのまま詠みこんだり自分の気持ちのみをあからさまにうたって目前にあるさまざまな具象を忘れるのではなく、あくまでも現実の景を凝視してそこから何物かの真をつかみとることが本筋だと思う。句作の道は理論ではなく、どこまでも実作する修業道である。美を伴わない詩の思想は和に無縁である。

大事なのは言葉を数多く知

ることと、上手な人の句を真剣に数多く味わうこと。芸術の道は生涯、未完成であるべきで、自分がこれでよいと思った時から退歩がはじまる。深い心で物を見る写生、みずみずしい情感をもち、他人の身辺も村や町の情景もこまかく一木一草一鳥の姿を追い、その生命にふれた写生こそ必要。景色を詠うにしても生活を詠うにしても心境を詠うにしても、物の中心を突いているもの、即生命に触れることが必要である。机上作品には限度があり、よい句悪い句の選別には困惑を伴う。
なにはともあれ、四季の自然を深く濃く凝視して、俳句を生涯の勉強としたい。

信濃観月苑からの吟行地

聖高原



更級紀行の難所猿ヶ馬場峠。山湖聖湖。覆いのない。ヘアリフトに乗って着く展望台からは善光寺平と千曲川、四方には信濃の名山が。下りは思いがけない高度感。湖辺の植物やデゴイチに親しみレストランで句会を。博物館、川島浪速の別荘（復元）、聖山頂、お仙の茶屋跡の芭蕉句碑への山道も。

麻績宿

日本陣、芭蕉句碑、姨捨山遥拝所など。昭和の面影を残す人通りの

ない善光寺街道をゆつくり歩けば思いがけず句材が見つかります。若山牧水なども訪れた日本陣。宿場からは遥かに姨捨山が。



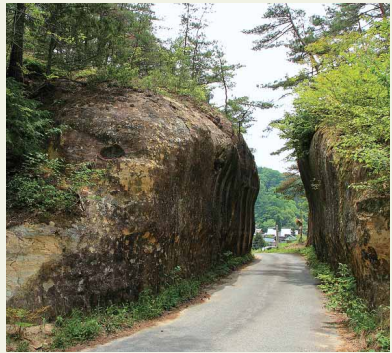
シェーンガルテンおみ

カナダの名園を模した庭園。レストランあり宿泊可。北アルプスの展望を堪能。旧日向学校の桜やゆりの木、近くの枝垂桜まで足を伸ばすのも良いでしょう。

青柳宿・切通し

善光寺街道の宿場の面影を残す整備された青柳宿。「狐

の嫁入り」の行われる年の春は賑わいます。



差切峡・山清路

麻績川が犀川にそそぐ溪谷。新緑紅葉。温泉も。

修那羅峠

安宮神社と石仏群。加藤楸邨も訪れ、藤田宜永の小説にも登場します。表参道から



車で入れば健脚でなくても行かれます。めずらしい種類の八重桜が遅く咲きます。山深い温泉で句会を。蜚の頃もおすすめ。

麻績神明宮・刈谷沢神明宮

麻績のみくりや横には句会場となる温泉が。

刈谷沢神明宮の「お田植祭り」張子の牛に雪礫。

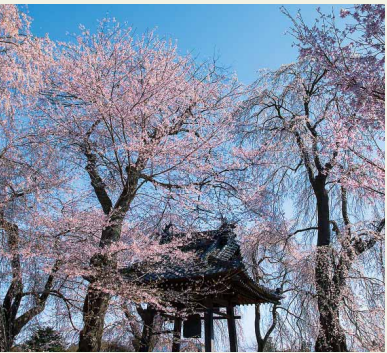
(曼陀羅の里寺めぐり)

安養寺・福満寺・

善導寺・碩水寺・

観音寺・花顔寺

寺の多いこの谷。静かな寺それぞれに見所が。



(信濃二十三番札所めぐり)

法善寺・宗善寺・

岩殿寺・大日堂・

関昌寺
ツアーもありますが個人で巡礼されている方も。



山が浅く豪雪地帯ではないので北信濃のような植物群落は期待できませんが北と南の植物分布の接点の特性でいろんな植物が見られます。時季にはかたくり祭も開かれます。聖高原は夏鳥のメッカでとりわけホトトギスはたくさん来ます。この谷のシンボル四阿屋山山頂などにはぶな林もあります。熊猪鹿蛇などと折り合い里山歩きをすれば句がたくさんできます。

ギャラリー展

江間廣・凡倶楽部作陶展

4月29日(金)～5月15日(日)

出展／江間廣・陶芸教室会員 20名

草木屋 草木染展

5月21日(土)～6月5日(日)

出展／山崎樹彦・澄子 山崎杜人・山崎美季・山崎梢

伝統の着物 武士の時代から今へ

5月27日(金)～5月30日(月)

会場／大寄せの間 出展／尚榮堂美術

藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月10日(金)～6月12日(日)

出展／橋詰清貫

日達れんげ きりえ展「野の花 二十四節気」

7月2日(土)～7月18日(月)

出展／日達れんげ

H I J I R I アートエキシビション

7月23日(土)～8月21日(日)

出展／窪田昭人・久保田優子・アトリエどんぐりのこどもたち ほか

更級花織工房展～あんずのいのちを絵絣に織る～

8月26日(金)～8月31日(水)

出展／窪田孟恒 協力／永岡真由美

第2回お宝展

9月9日(金)～9月12日(月)

出展／蒐集家・所有者

アンコール「おちやめな90歳」林健司写真展

9月17日(土)～9月25日(日)

出展／林健司

「私がつくった楽茶碗」展

9月28日(水)～10月3日(月)

出展／講座「楽茶碗をつくりましょう！」参加者

天山窯 一條隆好作陶展

10月7日(金)～10月24日(月)

出展／一條隆好

冬季間は企画展を行うこともあります。(月の里俳句小中学生入選作品短冊展示など)

観月苑文化講座

参加者募集中

山口勝人写仏教室

【第1土曜日】

14:00～16:00

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

御詠歌教室 【第1水曜日】

13:30～15:30

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／法善寺大屋明子

小林一茶の世界 【第3木曜日】

10:00～11:30

会費／月1,000円

(前期・後期とも

各6,000円)

講師／「岳」同人窪田英治

今年度も継続し、生涯を辿った後

は松尾芭蕉の講座に変わります

楽茶碗をつくりましょう!

【3回シリーズ】

6月4日(土)・5日(日)・18日(土)

定員 10名

会費／材料費含め

1,500円

講師／天山窯 一條隆好先生

実作者のための俳句講座

【夏を予定 2回シリーズ】

会費／2,000円 吟行会

にかかる費用は実費負担

講師／「岳」編集長

小林貴子

催し物 案内

第24回月の里俳句作品募集

募集締切 8月31日水

大人 3句一組(何組でも可) 投句料/1,000円
おおむね小学3年生~中学生 2句まで 投句料無料
選者/「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子
「梟」同人・水上孤城

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
時間 10:00~15:00 日時は変わることがあります。
会費/一席600円
点心&お抹茶2,500円(要予約。3名様以上)

- | | | |
|--------|-------------|---|
| 4月29日金 | 武者小路千家 | 亀の香茶稽古の会(松本市) |
| 5月15日日 | 宗偏流 | 宮田宗恵社中(長野市) |
| 5月29日日 | 裏千家 | 山中宗艶社中(長野市)
耕月軒立礼
裏千家 島津宗純社中(長野市) |
| 6月5日日 | 裏千家 | 小山宗道社中(長野市) |
| 6月12日日 | 表千家流 | 中曽根宗美社中(上田市) |
| 6月26日日 | 石州流
表千家流 | 芳香庵松悠(筑北村)
金井社中矢口宗藤・宗花
(筑北村) 耕月軒 |
| 7月10日日 | 裏千家 | 公民館茶道クラブ(麻績村) |
| 7月24日日 | 裏千家 | 福原宗富社中(長野市) |
| 8月7日日 | 表千家流 | 鈴木康之(名古屋市) |
| 9月4日日 | 裏千家 | 小林宗智社中(長野市) |
| 9月18日日 | 裏千家 | 東方宗満社中(長野市) |

第17回曼陀羅の里

お月見俳句大会 10月8日土

13:00~16:00
当日句 2句(自由題)
会費/1,500円
(投句料・聴講料・懇親会費)
選者/「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子
「梟」同人・水上孤城

第23回紅葉がりの茶会

10月23日日

受付/10:00(受付終了14:00)
定員/150名 会費/3,000円(予定)

お抹茶2席と点心席

この日は通常のお茶席、貸館はありません。

みんなで歌いましょう!

合唱指導とテノール独唱

7/24日 14:00~16:00 場所/月の館大寄せの間
講師・テノール独唱/島津 和平 ピアノ伴奏/関崎 千奈美

大月裕夫ピアノコンサート

9/18日 14:00~15:30

場所/月の館大寄せの間 参加費/おとな1,500円
ピアノ/大月裕夫
月の季節にちなんだ曲をお届けします
次のページに詳しいご案内があります

遠山望・山川拓也 デュオリサイタル

11/13日 13:30~15:30

場所/月の館大寄せの間 参加費/おとな1,500円
サクソフォン/遠山望 ピアノ/山川拓也
ゲスト 山田和也(ドラムス)
演奏予定曲目:テイク・ファイブ/ドラムスとサクソ
フォンによるインプロビゼーション ほか

某家協賛

第2回 お家宝展 尚榮堂美術他

場所…信濃観月苑(麻績村)

日時…平成28年9月9日(金)～9月12日(月)12時まで

特別出品

韓国人間国宝 柳海剛展

傳・田能村竹田「溪山訪友図」(直入道人箱書)

傳・柳里恭(柳沢淇園)三幅対

傳・狩野探幽「水墨山水」(高遠様遺墨小口家)

《信州ゆかりの著名人の作品》

川船	水棹	浅井	洌	小里	頼永	菊池	契月
新村	翠石	細田	香雨	窪田	空穂	児玉	果亭
降旗	篁岳	秋山	白巖	加藤	犀水	高井	鴻山
滝川	太郎	白山	卓吉	百瀬	渡	赤羽	雪邦
登内	微笑	福島	安正	池上	秀畝	浅田	宗白
堀田	秀叢	河越虎之進	塩川	文麟	藤森	桂谷	
仙石	翠淵	川島	浪速	丸山	永畝	天龍	道人
中林	梧竹	丸山	雲田	岡	麓	岩波	其残
中村	不折	窪田	松門	小平	雪人	澤柳政太郎	
藤森	素檠	古曳	盤谷	矢沢	弦月	長井	雲坪
石井	柏亭	鷹野	樽亭	安藤	耕斎	矢崎	虎夫
伊川	鷹治	香取	秀真	保尊	良朔		

信州ゆかりの作家以外の大家の作品も展示します

その他多数出品

*作品の都合上、変更は予め御了承下さい。

大月裕夫ピアノコンサート

9/18日

プログラム



ご挨拶・曲紹介

1. ベートーヴェン作曲

ピアノ・ソナタ第14番 「月光」

2. ショパン作曲 「舟歌」

休憩

3. リスト作曲 「愛の夢 第3番」

4. リスト作曲 「ラ・カンパネラ」

5. 「月の沙漠」

6. 「荒城の月」

7. ショパン作曲 「夜想曲 第16番」

8. ドビュッシー作曲 「月の光」

大月裕夫 プロフィール

1987年松本市生まれ、3歳より才能教育研究会でピアノを学ぶ。長野県松本盲学校、武蔵野音楽大学を卒業後、松本市においてピアノの演奏活動を始める。今までに松本市、安曇野市でコンサートを、松本市、塩尻市、大町市、千曲市、麻績村の小学校で講演・演奏会を実施。

第二十三回月の里俳句入選作品

一般の部

佐藤文子選

特選	木曾川の水にとけゆく祭唄 病む妻を咎めて悔ひし秋の空	稲沢 礼子 宮下 裕太
秀逸	体ごと聞き手となりぬ秋桜 黄金の麦野良着刺すなりアルルの陽 被爆者は同じ命日盆の月	山崎 妙子 草薨 順子 小谷 一夫

神田北童選

特選	反戦論交はし氷菓に咽せてをり 快復の手に握らせる青胡桃	成保 房子 荻久保八重子
秀逸	新涼や木綿豆腐に有る布目 新蕎麦や木目のやさし利休箸 永らへて永らへてまた敗戦日	古畑 和 井坂 一炷 宮下 裕太

佐藤文子選

特選	かれ葉落ちせつな積もるこの気持ち かぐやひめお月に帰るまたきてね	共和小学校 五年生 大館万莉菜 共和小学校 五年生 高山りん花
秀逸	温泉のお湯にうかぶもみじたち 口の中ピンクにそまるかき氷 海にはね夏の香りがする感じ	共和小学校 六年生 東方 凜 麻績小学校 三年生 カンボス紗智 麻績小学校 四年生 待井 唯菜

神田北童選

特選	スーパームーン帰ってきたよかぐやひめ あさがおはぼくたちのことみているよ	共和小学校 五年生 塚田 義晃 共和小学校 一年生 はせがわはるき
秀逸	ホームラン夏の夕日に向かってく カブトムシわれがつよいとツノあわせ 秋の夜のしげみの中は音楽会	共和小学校 五年生 高野 一馬 麻績小学校 五年生 宮下 慧 共和小学校 六年生 古川 柚光

小林貴子選

特選	美男子を好み酢海鼠こりこりと 鍋の中大根常にまともめ役	黒沢 孝子 酒井 和子
秀逸	峠より校舎の桜新任地 嘶ける脚に力や今朝の秋 復刊の岩波文庫月涼し	小林 忠男 北沢 雅子 小伊藤美保子

水上孤城選

特選	波音の遅れ躑躅来る夜の秋 雨脚に虹のたちらる魂迎	西川 房子 曾根原幾子
秀逸	峠より校舎の桜新任地 舗装工事の蒸気鎮まる萩の花 鍋の中大根常にまともめ役	小林 忠男 高松 正明 酒井 和子

小林貴子選

特選	あきの日に家でのんびり読書する 雪だるま小さな玉から出来るんだ	共和小学校 二年生 中村ことみ 共和小学校 四年生 高野 彩音
秀逸	夏の夜家族みんなで星さがし お花市おぼんのじゅんび花えらぶ リス達が冬に備えて仕事する	麻績小学校 五年生 高野 遥翔 共和小学校 四年生 戸澤 一彩 共和小学校 六年生 稲木 瑠奈

水上孤城選

特選	秋風がヒューとふくと服変わる 揺れながら田んぼを彩る彼岸花	共和小学校 六年生 岡沢 実知 共和小学校 五年生 岡澤 一花
秀逸	おぼんすぎ宿題トンネルいつぬける 海にはね夏の香りがする感じ 音楽会たいこをたたくぼくのあせ	坂井小学校 六年生 市川 涼音 麻績小学校 五年生 待井 唯菜 麻績小学校 三年生 いい森まき



耕月軒の降りつくばい

耕月軒の楓

小学生の部

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933
メール kangetsu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金/1会 10,000円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



大寄せの間

(2F 40畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金/半日 3,000円・1日 6,000円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円

お抹茶 600円
点心 2,000円(3名様より。要予約)

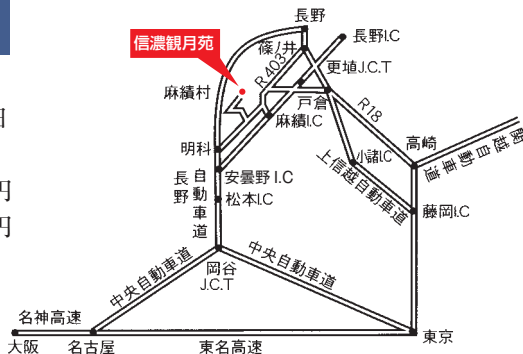
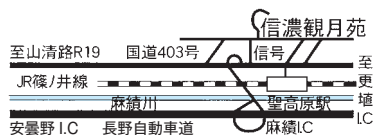
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日(火曜祝祭日は開苑、水曜休苑)
入場料 個人 高校生以上 300円
 小人 150円
 団体 20名以上2割引



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

表紙/5年が過ぎた被災地。月が風のなかのチェリストを照らす画から、やわらかい音色を聴きとることができるでしょうか。